

ラグビーワールドカップ 2019 における交通アクセス対策について

1 交通輸送調査の内容

	第 1 回 ラグビーテストマッチ	第 2 回 大規模コンサート	第 3 回 Jリーグ公式戦	第 4 回 イベント非開催時
イベント日時	平成 28 年 6 月 25 日（土）19～21 時頃	平成 28 年 8 月 27 日（土）15～21 時頃	平成 28 年 9 月 17 日（土）19～21 時頃	平成 28 年 9 月 30 日（金）
観客数・観客層	3． 4 万人 幅広い層	5． 5 万人 女性・若年層多い	3． 3 万人 リピート客多い	—
鉄道・バスの対応	飛田給駅：臨時停車 35 本 シャトルバス：復路のみ 3 系統 路線バス：往路のみ増発 18 本	飛田給駅：臨時停車 55 本、増発 2 本 シャトルバス：往路 4、復路 6 系統	飛田給駅：臨時停車 35 本 シャトルバス：往路 6、復路 8 系統	—
調査のポイント	ラグビー国際試合において、2 0 1 9 年大会本番を想定し、観客・大会関係者の交通流動等を把握	観客動員 5 万人規模のコンサートにおける交通流動等を把握	来場経験のある観客が多い J リーグ戦において、定型・効率化された交通流動等を把握	2 0 1 9 年大会開幕戦（9 月 2 0 日（金））と同時期における平時の交通流動等を把握

2 調査結果概要

（１）公共交通機関の利用状況

○飛田給駅

- ・ イベントを通じ、観客の約 7 ～ 8 割が利用し混雑
- ・ 特急・準特急の臨時停車や増発、誘導員配置
- ・ 退場時の最大ピークには、駅構内で一時滞留が発生

○多磨駅、西調布駅

- ・ 両駅ともに退場時の観客の利用は 5 % 未満
- ・ 多磨駅は京王線一時不通時に迂回路としても利用

○シャトルバス

- ・ 復路利用者は、第 2 回の 1 5 % が最多。J R 中央線方面や調布駅への利用が多い
- ・ 往路利用者は観客の 5 % 以下と復路に比べ少ない

（２）歩行者の状況

○退場時（飛田給駅～スタジアム間）

- ・ 第 2 回は、会場内で退場制限実施。観客退場のピークが約 7 0 分間継続
- ・ ラグビーに比べて J リーグは、会場に慣れた観客が多く、退場に要した時間は、ラグビーの約 2 ／ 3

○入場時

- ・ 第 3 回は、自由席確保や会場内の関連イベント等で開場前から一部の観客が来場し、ピーク分散
- ・ 第 1 回のラグビーは、J リーグに比べ入場ピークが試合開始前に集中。観客動線が敷地内で開催したイベントと重なり、入退場時に混雑
- ・ 第 1 回は V I P 駐車場動線と観客動線が重なり混雑

（３）道路交通状況

○イベント開催時

- ・ 甲州街道は、毎回、入退場時間帯を中心に、関係車両や一般車両の集中等により、渋滞が発生
- ・ 特に第 1 回の退場時の渋滞は、一時的な交通規制や V I P、警備車両、シャトルバス等の集中により、2 3 時頃まで発生
- ・ 調布 I C 出口は第 1 ・ 2 回の入場時間帯に混雑
- ・ 観客送迎のタクシーや一般車両による路上駐停車発生

○イベント非開催時（平日金曜日）

- ・ 主要道路は渋滞なし

3 対策の方向性

項目	課題	対策の方向性
公共交通機関	【鉄道】 ○飛田給駅における鉄道利用者の安全かつ円滑な移動の確保、混雑緩和 ○多磨駅等を活用した観客動線の分散と鉄道の運転見合わせなどに備えた来場ルートの複数化 【シャトルバス】 ○車両台数、乗降スペース等を踏まえた効率的な運行、往路シャトルバスの有効活用	○5万人規模のイベント開催時の需要推計に基づき、鉄道事業者とともに、大会時の輸送計画を検討 [対策例] ・観客に対して複数の交通ルートを周知（鉄道利用駅の分散） ・飛田給駅での特急・準特急の臨時停車 ・観客に余裕をもった来場・退場の呼びかけ 等 ○バス事業者とともに、シャトルバスによる輸送計画を検討 [対策例] ・シャトルバスの活用と運行ルートの周知 ・シャトルバス乗降場の適切な案内 ・会場内シャトルバス乗降場での多磨駅行バスの利用促進 等
会場への歩行者動線	○スタジアム通りの混雑緩和及び安全確保 ○地元住民等の移動ルート確保、観客の生活道路への流入抑制 ○通行規制時や渋滞時の甲州街道での乱横断の防止	○需要推計に基づき、道路管理者、交通管理者とともに、歩行者の誘導計画を検討 [対策例] ・歩行者動線に交通誘導員配置 ・会場への動線で案内表示や都市装飾による誘導 ・VIP動線と観客動線の分離 ・ファンゾーンを適切に活用した滞留者の分散 等
自動車アクセス	○会場周辺の道路における渋滞の抑制（甲州街道、調布IC出口、スタジアム通り等） ○VIP・スポンサー・メディア等の自動車利用を想定した対応	○需要推計に基づき、組織委員会や道路管理者、交通管理者とともに、自動車アクセスの計画を検討 ○VIP・関係者等の来場ルート、駐車場、通行時間帯等を検討 [対策例] ・公共交通機関の利用促進による自動車総量の抑制 ・大会関係車両等のルート設定、通行時間帯の分散、事前周知 ・会場周辺での関係者駐車場の場所確保、分散配置 等
その他	○周辺道路上でのタクシー乗降が一般車両の通行に影響 ○外国人や障害者の来場を想定した円滑な誘導 ○深夜の移動手段確保	○タクシー乗降、外国人観戦客の誘導策、車いす利用者等の来場動線の検討 [対策例] ・適切なタクシー乗降場所の設定と案内 ・会場への交通ルート案内や誘導員等による多言語対応 ・深夜時間帯の多様な交通手段の確保 ・介助が必要な方に対するボランティア等による対応 等